

国際室

編集：日本弁護士連合会
国際室

たより

No.57

会員専用ウェブサイトの
国際ページはこちら



(本紙に記載されている
イベント等の詳細をご覧
いただけます。)

「国際分野で活躍するための法律家キャリアセミナー」が開催されました

1. 概要

2023年9月16日、「国際分野で活躍するための法律家キャリアセミナー」(日弁連主催、法務省・外務省共催)が開催されました。官庁、国際機関、法律事務所等、様々な場で国際業務に従事する法律家等10名が登壇し100名を超える聴衆に向けて講演を行いました。本記事では講演内容を一部紹介します。

2. 国際機関で働くには

- ・応募多数のため書類で足切りされないよう、最初に見られるカバーレターの質を上げることが重要。他方、国際機関における日本出身者は不足しており、採用のチャンスは比較的大きいのでまずは応募してみることも大切である。
- ・自分のやりたいことを具体的に描き、行動に移すことが大切。具体的には、外に向けてアピールすること、チャンスがあればいつでも掴める準備しておくことが重要である(ネットワーキング・専門性の強化など)。
- ・多様なバックグラウンドを持つ同僚との議論は日常業務なので、自分の意見を持ち、議論に貢献することが重要である。

3. 地方における涉外業務

- ・グローバルな仕事によって、地域の発展・活性化に寄与できるという二面性が魅力。地方の中小企業にとって国際化プロジェクトは会社の命運を分けるものであることも多いため、企業の重要局面に貢献できることはやりがいである。
- ・地方における涉外業務はニーズが大きいため弁護士進出のチャンスは多い。地方の中小企業は事業内容も相談内容も様々なので、専門性よりもジェネラリストが求められる。

4. 省庁での任期付き公務員

- ・裁判官、検察官、官僚、他の省庁など、常に別のバックグラウンドを持つ人とチームで活動するのでチームワークが重要である。
- ・弁護士としての知識経験、論理的思考力はどの場面でも生かせる。

5. 国内での人権業務(渉外家事・入管業務)

- ・初めから専門を決めず実際に多くの案件を経験する中で専門分野を決めていくこともありうる。例えば、様々な渉外家事事件を扱うことで、在留資格・言語・経済力等の要因が複合的に重なっている外国ルーツのDV被害女性が最も脆弱な立場の一つであると思い、専門の一つにした。
- ・人権分野と収益については、人権分野の依頼者は金銭的に余裕がない人も多く、また、渉外案件は調査、通訳、ケースワーカーとの協働など手間も時間もかかる。人権分野で収益を上げることは難しいので、別の収入源(知財案件、不動産案件、管財人案件など)を確保している人が多い。

6. 国際司法支援

- ・日本の知識経験を他国に教えるものではなく、社会・文化・慣習などの違いを理解した上で実施する必要がある。やりがいがある。法・開発とは何かということ、根本から考える貴重な機会である。
- ・言語については、お互いにとって第2言語である英語を介して直接やり取りしたり、通訳を介したりする。コミュニケーションに齟齬が生じる可能性を常に念頭に置きつつ職務遂行すること、また、可能であれば対象国の言語を多少なりとも読めるようになることは大切である。
- ・具体的な求人情報は、日弁連の国際メルマガなどに掲載されるので登録いただきたい。

(国際室嘱託
小林 美奈)



パネルディスカッションの様子

ABA(米国法曹協会) 2023年年次大会(デンバー)

ABAは、主として米国の弁護士を対象とした任意団体ですが、米国と世界に40万人以上の会員を抱えており、任意の法曹団体としては世界最大規模と言われています。日弁連はそのABAの年次大会に例年ゲストとして招かれ、参加をしています。

2023年8月2日から8日まで、コロラド州デンバーにて年次大会が開催され、戸田綾美副会長が出席しました。日弁連を含めた米国外からのゲストに対しては、ランチセッションとテーマを決めた意見交換会のプログラムが用意されており、弁護士会の独立に対する脅威、ヘイトスピーチ、そしてAIについて、各国・



年次大会の様子

地域からの参加者が、最新の議論や自らの経験を踏まえて忌憚のない意見交換をしました。このほか、多種多様なテーマで開催された年次大会の各セッションの傍聴や、ABA国際法セッションと日弁連との会合などを行い、年次大会終了後も継続的な交流と意見交換につながっています。

(国際室嘱託 尾家 康介)

AIJA(若手法曹国際協会)2023年リオデジャネイロ年次総会

2023年8月21日から26日にかけてリオデジャネイロでAIJA年次総会が開催されました。AIJAは、世界各国の45歳以下の法曹会員で構成される団体です。総会ではRe-thinking the law in four dimensionsをテーマに、55か国から集まった480名以上の参加者が、気候変動対策、仮想通貨、ニューロテック等について議論しました。

ディスカッション中、日本がユニークな仮想通貨の規制をしていることが話題になりました。世界各国の弁護士が日本の文化に高い関心を示しているものの、特定の法制度の趣旨や背景への理解は浸透していないと感じる場面がありました。日本からより多くの先生に御参加いただくことで、相互理解が進むのではないかと拝察しました。食事会以外にも、ランニングやヨガ等のイベントを通じて、参加者と交流を深めることができました。AIJAの魅力に気付くきっかけをくださった国際会議若手会員参加補助制度に感謝しております。

マドリッドで開催される来年の年次総会に、日本から1人でも多くの先生が参加されることを願っております。

AIJA年次総会に参加した鈴木会員

(会員 鈴木 恵美里)



高校生向けキャリアセミナーを実施

国際室では、中高生に国際分野で活躍する弁護士というキャリアを紹介すべく、弁護士の国際業務に関するセミナーを企画しており、2023年6月に第1回として神奈川県聖光学院高等学校にてセミナーを実施しました。

セミナーでは、大学受験に向けた進路選択を控える高校1年生に、国際性を有する日常の法律業務、公益的な法律業務等を具体的な経験を交えて紹介し、弁護士にも国際性を有する幅広い活動を展開できる可能性があることを伝えました。



会場の様子

今後もセミナー実施の機会等を活用し、国際業務の魅力を発信していければと考えています。

(国際室嘱託 松本 成)

国際会議若手会員 参加補助制度の御案内

日弁連では、会員の国際活動を支援し、弁護士の活動領域を国際的に拡大するために、国際会議への参加費用補助を希望する若手会員を募集しています。参加方法(オンライン、現地参加)により募集要項が異なります。詳細は会員専用ページを御覧ください。



海外ロースクール 推薦留学制度の御紹介

日弁連は、海外ロースクール(アメリカ3校、イギリス1校、シンガポール1校)との協定に基づいて、毎年、公益活動に取り組む会員を推薦派遣しています。日本で取り組んできた公益活動について研究を深めるとともに、これまでの経験を海外で発信するチャンスです。応募の詳細は、会員専用ページを御覧ください。

